

## おわりに

ガイドラインには推奨（お勧め）している治療法が掲載されており、診療の現場で活用していただくことを考えて作られています。しかし、実際の診療では「ガイドラインにのっているから」と一律に当てはめることは適切ではありません。個々のお子さんによって状態や生活環境に違いがあり、最終的にはお子さんや保護者の方のご希望、価値観などによって治療法を決めていく必要があります。

お子さんの具体的な状態や治療などは、主治医の先生とよく相談しお決めください。このガイドラインが少しでも多くの患者さんのお役に立てれば幸いです。

小児滲出性中耳炎診療ガイドライン作成委員会

日本耳科学会

小児滲出性中耳炎診療ガイドライン作成委員会

担当理事 飯野 ゆき子 小島 博己 小林 俊光 高橋 晴雄

委員長 伊藤 真人

委員 上出 洋介 工藤 典代 黒木 春郎 小林 一女 高橋 吾郎

仲野 敦子 中山 健夫 日高 浩史 吉田 晴郎

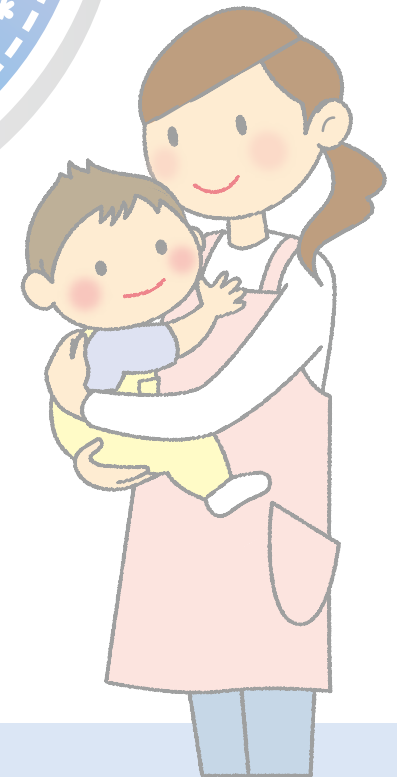
出版元：日本小児耳鼻咽喉科学会 価格：200円（含消費税）送料実費  
連絡先 Tel：03-3268-0099 e-mail：t\_komi@tokyo.kopas.co.jp

2016年7月作成  
この冊子に関するお問い合わせは上記学術団体もしくは出版元まで

# 小児滲出性中耳炎診療 ガイドラインについて

一般の方・おうちの方へ

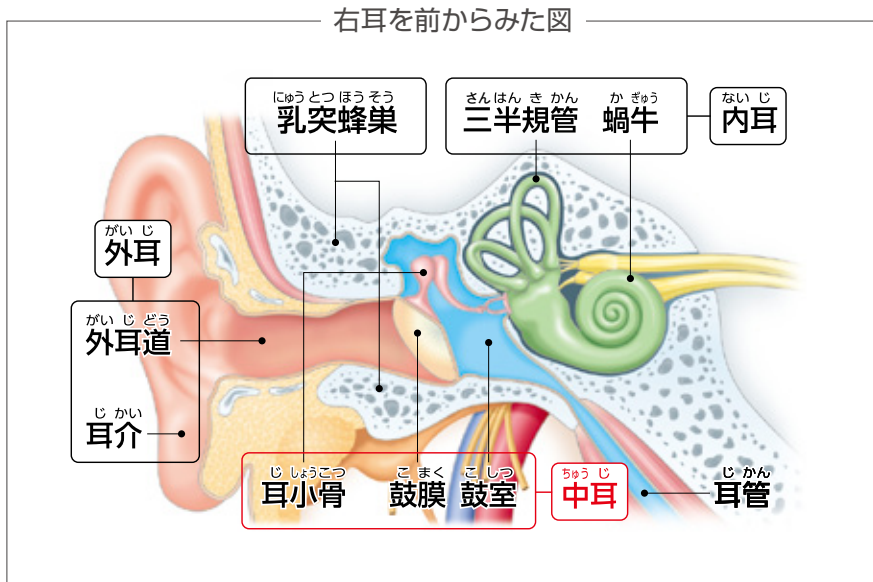
- 滲出性中耳炎とは・・・  
詳しく解説しました
- 状態に応じた治療について  
解説しました
- どういう状態か、治療については主治医の先生に相談しましょう



滲出性中耳炎は、鼓膜の奥（中耳）に液体がたまるお子さんに多い中耳炎です。子どもの難聴の原因として多い病気ですが、急性の炎症がないため無症状で気づかれないことも多く、そのままにしておくと難聴による言語や学習への影響、鼓膜の変化が残ることもあります。

「小児滲出性中耳炎診療ガイドライン」は2015年に初版が出されました。ガイドラインには滲出性中耳炎に関する情報がたくさん載っています。その内容をもとに、保護者の方とお子さんのために解説書を作りました。

## 耳のつくりとはたらき



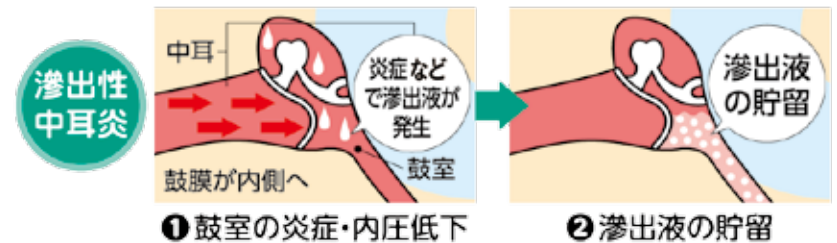
耳は大きく外耳、中耳、内耳に分けられます。耳の奥にある鼓膜の内側には空気がはいった中耳とよばれる空間があり、耳管という管で鼻とつながっています。また、中耳のまわりには、乳突蜂巣という空間があり、耳管とともに中耳の換気をする働きがあります。

## Q1 小児滲出性中耳炎とはどんな病気なの？

**A** 鼓膜の内側の中耳と呼ばれるところに、感染などにより慢性的な炎症（中耳炎）が起こり、液体（滲出液といいます）がたまっている状態です。

### 解説

- 滲出性中耳炎は中耳に液体がたまり、鼓膜の振動が悪くなって聞こえにくくなる病気です。
- かぜ、鼻副鼻腔炎、急性中耳炎などのあとに中耳の炎症が起ると、中耳の圧力が下がり滲出液がたまるようになります。
- 耳管や乳突蜂巣などの状態が良ければ、中耳炎や滲出液は自然によくなることもありますが、そうでない場合は、中耳に液体がたまる滲出性中耳炎となることがあります。



## Q2 どのような症状がでるの？

**A** 中耳に液体（滲出液）がたまるために、耳がふさがったような感じ（耳閉感）、聞こえが悪くなる（難聴）などが起こります。発熱や痛みはほとんどありません。自分で症状を伝えられない乳幼児では、耳をさわったり頭を振る、呼びかけへの反応が鈍くなるなどの行動や態度でわかることがあります。

### 解説

#### ● 耳閉感：

中耳に液体がたまると、耳閉感とよばれる耳がふさがった感じがします。耳がヘンだ、という違和感もあります。

#### ● 難聴：

中耳にたまった液体などで、鼓膜の振動が悪くなり、音が十分伝わらなくなるため、聞こえが悪くなります。乳幼児は自覚しないのですが、小学生以上では聞こえの悪さを感じることがあります。聞き返しが多い、テレビの音が大きくなるなどにより、周囲から気づかれることもあります。



## Q3 どのような人がかかりやすいの？

**A** 滲出性中耳炎は子どもに多い耳の病気です。特に小学校に入るまでの子どもさんに多く、年齢が上がるにつれてしだいにかかりにくくなります。

### 解説

● 1歳までに50%以上、2歳までに60%以上、小学校に入るまでに90%の子どもが1回はかかるといわれます。

● 滲出性中耳炎が治った後もまた中耳炎になった、というように繰り返す場合もあります。小さなお子さんでは、急性中耳炎（中耳に膿がたまり発熱や痛みなどが出る）と互いに移行することもあります。

● 子どもの滲出性中耳炎では、鼻やのどの炎症が原因になっていることが多いのも特徴です。



# Q4

## しんしゆつせいちゆうじえん こまく 滲出性中耳炎になると鼓膜はどのようになるの？

**A** | ちゆうじ えきたい  
中耳に液体がたまると、鼓膜がへこんだりします。また、ながい間液体がたまっていると、鼓膜が薄くなるなどの変化が強くなります。

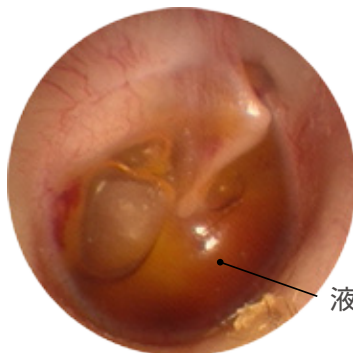
### 解説

#### ●液体の貯留：

せいじょう  
正常では、中耳には空気が入っており、液体はたまっていません。滲出性中耳炎では、中耳の液体（滲出液）が鼓膜から透けてみえます。



正常な鼓膜



液体

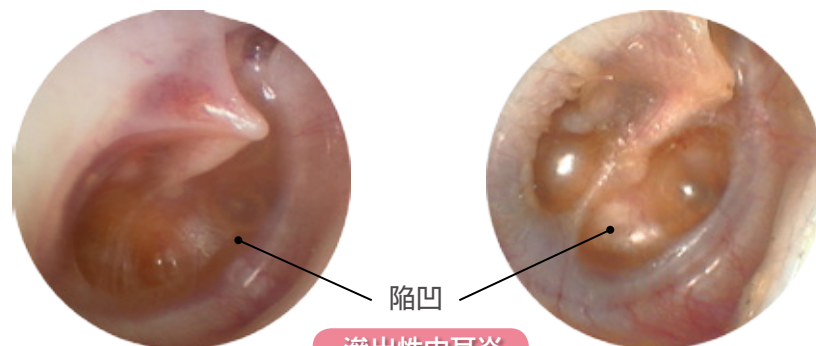
滲出性中耳炎

#### ●鼓膜の動きが悪くなる：

うご わる  
正常の鼓膜は、きみつじきよう しんさつどうぐ  
気密耳鏡という診察道具やティンパノメトリという検査装置で圧力を  
変化させると、よく動きます。しかし、中耳に液体がたまると、この動きが悪くなり、  
なんちよう げんいん  
難聴の原因にもなります。

#### ●鼓膜陥凹：

かんおう  
鼓膜がへこんでいることを鼓膜陥凹といいます。中耳と外耳との圧力の差によって  
おく  
奥に鼓膜がひきこまれている状態です。

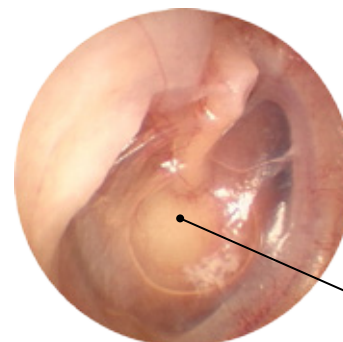


陥凹

滲出性中耳炎

#### ●鼓膜の菲薄化・接着：

ひはくか せつちやく  
ながい間液体がたまっていると、鼓膜全体が薄くなったり（菲薄化）、鼓膜のへこみが  
つよ  
強くなり奥の骨とくっつく（接着する）こともあります。



鼓膜の菲薄化・接着

滲出性中耳炎

注：5ページ、6ページの写真はすべて右耳の鼓膜

## Q5

### ちりょう 治療はどのようにするの？

**A** 3か月以内は、自然に治ることも期待できるため、必要な検査や治療をしながら注意深く様子をみます。治らない場合の治療としては、飲み薬などの保存的治療、鼓膜にチューブを入れるなどの手術治療があります。

#### 解説

- 小児の滲出性中耳炎は、中等度以上の難聴や鼓膜の変化などがなければ、発症から3か月間は様子を見ることが勧められています。ただし、この間には何もせずただ観察するというのではなく、必要な検査を進めるとともに周囲の炎症や感染に対する治療をしながら、注意深く様子を見るという意味です。
- 保存的治療では、粘液溶解薬の内服が勧められています。アレルギー性鼻炎を含む鼻副鼻腔炎、アデノイドの炎症などが小児の滲出性中耳炎を悪化させると考えられているため、これらに対する治療も行われます。また、耳管通気とよばれる鼻から耳に空気を送る治療を行うこともあります。
- 3か月たっても自然に治らない場合は、それ以上待っても治らないことが多いため、手術治療が必要となることもあります。鼓膜に小さなチューブを入れる小手術や、鼻の奥にあるアデノイドを取る手術などがあります。  
\*アデノイド：鼻の奥にある扁桃（リンパ組織）



## Q6

### のぐすり ちりょう 飲み薬の治療はどんなものがあるの？

**A** 滲出性中耳炎では、中耳にたまっている液体を出しやすくする粘液溶解薬がよく使われます。鼻や副鼻腔の炎症があるお子さんでは、それらに対する薬が使われることもあります。

#### 解説

- よく使われるのは、カルボシステインとよばれる粘液溶解薬です。この薬は、中耳の液体を出しやすくしたり、鼻副鼻腔炎に対しても効果があるといわれています。
- 滲出性中耳炎の治療では、鼻副鼻腔炎や繰り返す急性中耳炎、アレルギー性鼻炎などの炎症を治すことも大切です。鼻副鼻腔炎がある場合には、マクロライド系薬（クラリスロマイシンなど）とよばれる抗菌薬を飲むとよくなることがあります。
- それぞれの治療法についてはかかりつけの医師にお聞きください。



## Q7 のぐすりいがい ほぞんてきちりょう 飲み薬以外の保存的治療はどんなものがあるの？

**A** | 鼻や副鼻腔の炎症があるお子さんでは、鼻水を吸い取ったり、吸入をしたりする治療が行われることがあります。鼻と耳をつなぐ耳管という管から中耳に空気を送る治療（耳管通気）もあります。

### 解説

#### ●鼻や副鼻腔炎の治療：

鼻副鼻腔炎がある場合には、外来や自宅で鼻水を吸い取ったり、吸入をしたりする治療が行われることもあります。

#### ●耳管通気：

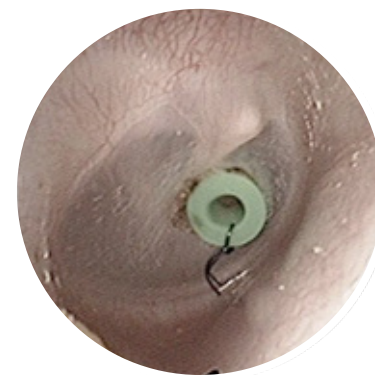
鼻と耳をつなぐ耳管という管から中耳に空気を送り、中耳の圧力を正常に戻そうとする治療です。急性中耳炎をおこすこともありますので、医師の指導のもとに行ってください。

## Q8 こまく 鼓膜にチューブを入れるってどのようなものなの？

**A** | 滲出性中耳炎の主な手術治療は、鼓膜に小さなチューブを入れるものです（鼓膜換気チューブ留置術）。

### 解説

- 正しくは鼓膜換気チューブ留置といいます。鼓膜に小さなチューブを挿入することで、中耳にたまっている液体を出しやすくして炎症をおさえます。即効性に聞こえが良くなることや鼓膜の病的な変化を予防する効果が期待されますが、鼓膜が硬くなった穴が残る、耳だれが出る、などの問題点がおこることもあります。
- チューブを入れている間は、定期的にチューブがつまったりしないか診察をうけましょう。入浴の時に耳栓は必要ありません。
- チューブを入れておく期間は2年間を目安としますが、途中で抜けてしまうことも少なくありません。手術は局所麻酔または全身麻酔（小さなお子さん）で行われます。



右鼓膜にチューブを入れた状態

# Q9

## その他の手術にはどのようなものがあるの？

**A** | 滲出性中耳炎では、鼓膜を切開したり、鼻の奥にあるアデノイドというリンパ組織を切除する手術もあります。

### 解説

#### ●鼓膜切開：

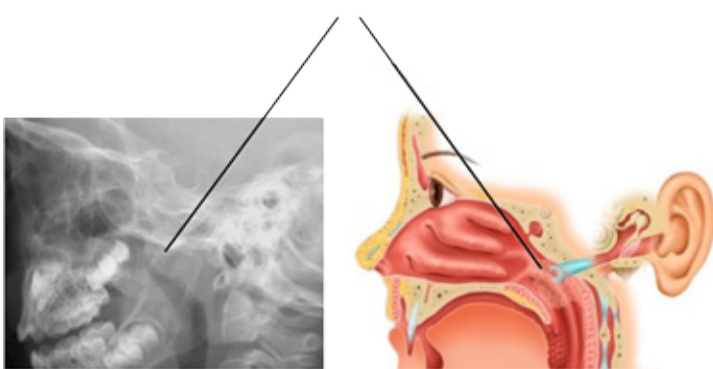
鼓膜を少し切開して中耳にたまっている液体を吸い取る小手術です。中耳の液体の状態を知りたいときや、どのような治療をするかを定める目的でも行われます。鼓膜切開を受けるとすぐに聴力の改善が得られますが、多くの場合は切開で開けた孔はしばらくすると自然に閉じて効果は一時的なものです。

#### ●アデノイド切除：

アデノイドは耳や鼻の慢性的感染のもと（巣）になっていると考えられています。鼓膜換気チューブ留置だけでは効果がたりない場合にアデノイド切除も行われます。通常は入院して全身麻酔をかけて行います。ただ、鼓膜換気チューブ留置に比べると子どもさんへの負担が大きく、術後の出血などの危険性もあります。

\*アデノイド：鼻の奥にある扁桃（リンパ組織）

アデノイド



# Q10

## ふだんから気をつけることはなにかあるの？

**A** | かぜ（上気道炎）、鼻や副鼻腔の炎症、生活環境（集団保育、家族の喫煙など）が中耳炎になるきっかけやリスクを増やすといわれています。これらに気をつけましょう。

### 解説

●子どもの滲出性中耳炎の多くは急性中耳炎をきっかけに見つかります。急性中耳炎は、完全に治るまできちんと治療を受けましょう。

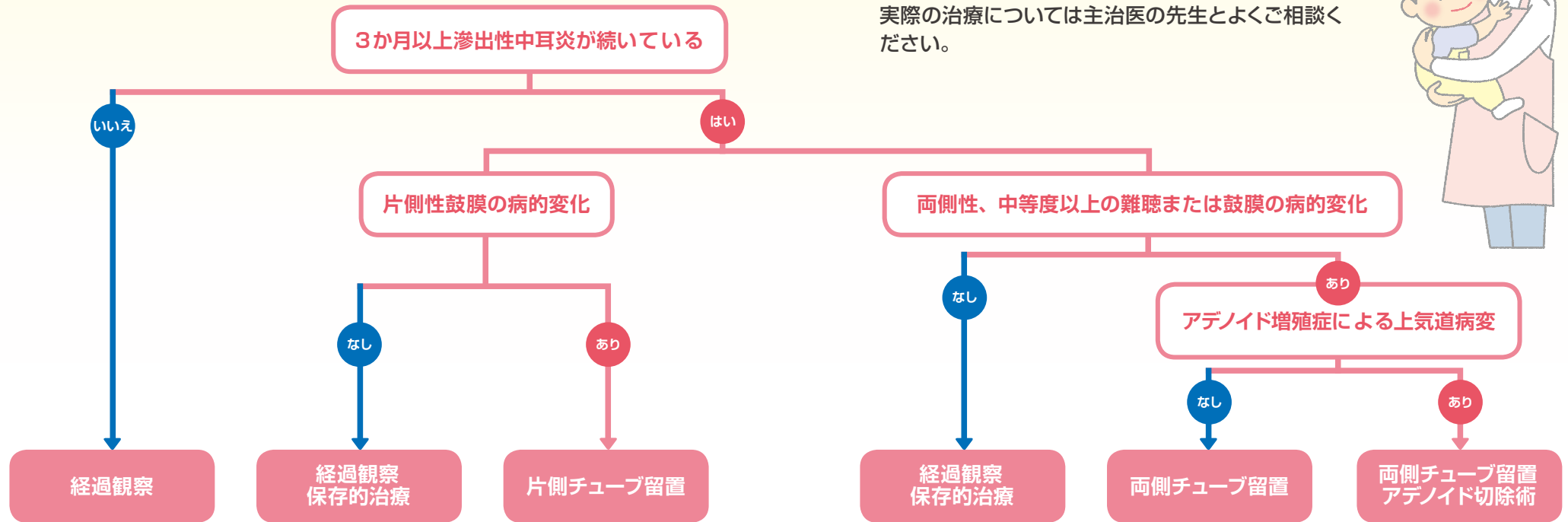
●子どもの滲出性中耳炎にかかりやすくなるきっかけとしては、かぜ（上気道炎）、アレルギー性鼻炎を含む鼻副鼻腔炎などがあります。

●特に難聴の程度が強い時には、滲出性中耳炎以外にも難聴の原因がないか調べることも大切です。

●集団保育、家族の喫煙など家庭に関連するものも滲出性中耳炎を治りにくくする原因になると考えられています。

●口蓋裂、ダウン症は滲出性中耳炎になりやすく、治りにくいことが知られています。





### ● 経過観察について

小児の滲出性中耳炎は、中等度以上の難聴や鼓膜の変化などがなければ、発症から3か月間は様子を見ることが勧められています。詳しくはQ5をご覧ください。

### ● 保存的治療について

粘液溶解薬の内服、鼻副鼻腔炎やのどの炎症に対する治療、耳管通気とよばれる鼻から耳に空気を送る治療などがあります。詳しくはQ6、Q7をご覧ください。

### ● チューブ留置について

鼓膜に小さなチューブを挿入することで、中耳にたまっている液体を出しやすくして炎症をおさえます。詳しくはQ8をご覧ください。

### ● アデノイド切除術について

チューブ留置だけでは効果がたりないと考えられる場合に行われます。詳しくはQ9をご覧ください。